

神戸国際労働交流事業団 (中国)に参加して



播磨ブロック代議員

南 俊 充



はじめに

播磨ブロック代議員の南です。神戸国際労働交流事業団の一員として、去る8月20日から26日の7日間、中国を訪問して参りましたのでその報告をさせていただきます。

参加者は、神戸労働者福祉協議会加盟の8労組から私を含め10名で、訪問先は中国の上海、南京、深圳、香港の4ヶ所です。

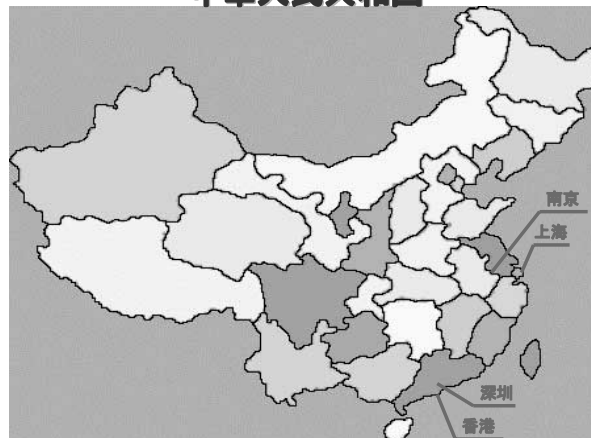
最初にこの視察の目的ですが、1995年1月17

日の阪神・淡路大震災の後遺症と長引く不況に苦しむ神戸・阪神地域にとって、「成長著しい中国との交易・交流を深め相互補完関係を築いていくことが経済再生の一つの突破口を開いていくことになる」という観点から国の阪神・淡路復興委員会で提案された復興特定事業である『上海・長江交易促進プロジェクト』が発足しました。その一環として1995年上海に中国ビジネスの展開に向けた現地拠点として“上海神戸館”が開設され、続いて今年の5月に南京事務所が新たに開設されました。この南京事務所の開設に伴い、将来一大マーケットになるであろう中国の経済、労働事情及び中国と神戸の経済交流について調査するとともに中国で初めての経済特区である深圳を視察することと目的としました。

神戸国際労働交流事業団 日程

| | 月 日 | 地 名 | 内 容 |
|-----|----------|-----------------|-------------------------|
| 1日目 | 8月20日(火) | 関西空港発 上海着 | 空路、上海へ 上海市内視察 |
| 2日目 | 8月21日(水) | 上海 | 上海神戸館訪問 |
| 3日目 | 8月22日(木) | 上海 南京 | バスにて南京へ 南京事務所訪問 |
| 4日目 | 8月23日(金) | 南京 南京発 香港 | 南京市内視察 空路、香港へ 香港着 |
| 5日目 | 8月24日(土) | 香港 深圳 香港 | バスにて深圳へ 経済特区視察 |
| 6日目 | 8月25日(日) | 香港 | 香港市内視察 |
| 7日目 | 8月26日(月) | 香港発 関西空港着 | 空路、帰国の途 |

中華人民共和国



中国と日本の架け橋 「上海神戸館」と「南京事務所」

『上海・長江交易促進プロジェクト』とは神戸市が中国との交流を深め、経済再生の足がかりを見つけようというものであり、このプロジェクトの日本と中国のつなぎ役が「上海神戸館」であり「南京事務所」ということになります。

上海神戸館は、神戸と中国の長江流域都市との交流・交易を発展させるために開設されました。こちらでは、日本製品の展示をはじめ、経済・文化交流などの様々な形態で活用されています。例えば、日本の企業が自社製品を中国で製作してもらうために製品を展示します。中国側から申し出があり、合意に達すれば商談成立となります。この架け橋役を上海神戸館が担っているのです。

上海神戸館の主な業務は3点あり、企業の宣伝及び取扱商品の展示を行うこと、企業の中国ビジネスにおけるコーディネートを行うこと、企業の技術交流及び人的交流のサポートをおこなうことです。今は特に の人材育成に力を入れている模様です。

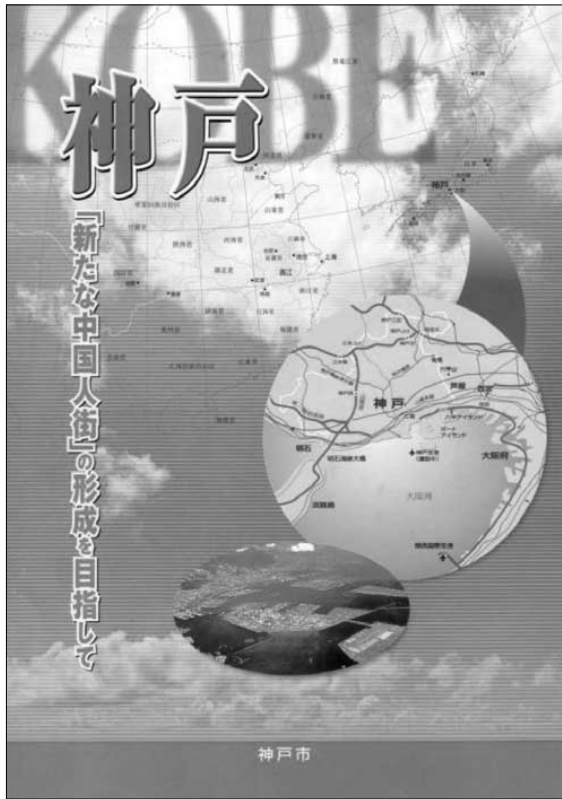
上海・長江交易促進プロジェクトとは

大震災からの復興のため、1995年（平成7年）10月、国の阪神・淡路復興委員会において提案された4つの復興特定事業の一つが「上海・長江交易促進プロジェクト」です。このプロジェクトは、目覚ましい発展を遂げる上海・長江流域経済圏と神戸・阪神経済圏の交易・交流を促進することにより、震災の後遺症と長引く不況に苦しむ神戸経済の一つの突破口を開こうとするもので、同年11月から日中間でプロジェクトの具体的推進を図るために協議を開始しました。

神戸ポートアイランドへの 中国企業の進出計画

次に訪問したのが南京事務所ですが、こちらも基本的に上海事務所と同じ業務を南京で行っており、現在注力しているのは中国企業を神戸ポートアイランド・第2期工事へと誘致することです。『中国・アジアビジネスを積極的に展開しようとする国内外の創造的な企業が集積する街づくり』を基本コンセプトとし、ポートアイランドに新たな中国人街を形成する計画が現在神戸市により進められています。既に神戸と長江流域を結ぶ交易として、専用船を用い定期的に延べ70回以上行われています。次のステップとして、物だけではなく人も交流しようということでポートアイランドに中国人街を作って中国企業の誘致が行われています。既に、ポートアイランド第2期にある「キメックセンタービル」に、商工貿易業務を行う中国各都市の神戸駐在員事務所を誘致し、2002年（平成14年）4月現在で、天津市、合肥市、鎮江市、武漢市、成都市、瀋陽市、揚州市、青島市、商丘市の9都市と本プロジェクトの中国側委員会が進出しています。神戸市では、これらの事務所の日本での営業活動が円滑に進むよう「ミニ展示商談会の共同開催」や「賃貸料・共益費補助」で支援が行われています。

また、中国系企業は、すでに家電メーカーの研究所やIT・医療関係等の9社が進出しており、将来「中国・アジアとのビジネスをするなら神戸で」となることを目指して、企業誘致の強化が行われています。



上海・長江交易促進プロジェクト

～交流が生み出す復興そして創造～

【新神戸・次世代復興委員会（委員長：下尾清元 理事：高橋次郎）の概要】

3カ年テーマ

- 神戸と長江流域を結ぶ国際的・経済的・文化的・人的な交流促進の推進
- 神戸国際・復興局による国際的な交流促進の推進
- 文庫館の復興に伴って中国語・英語・日本語を学ぶための国際的な人材の育成

効果・メリット

神戸市のまちづくりとして

- 同地域の交流・経済の拡大（復興局の推進、建設費の削減）
- 企業業績による経済的効果の増進（JPOの導入、海外の展開）
- JPOの導入による企業活動の拡大（JPOの導入による、海外の展開）

効果として

- JPOの導入による、海外の展開
- JPOの導入による、海外の展開
- JPOの導入による、海外の展開

【2002年度交流計画】

1. 中国系企業への調査・訪問
2. 中国系企業への調査・訪問
3. 中国系企業への調査・訪問
4. 中国系企業への調査・訪問
5. 中国系企業への調査・訪問
6. 中国系企業への調査・訪問
7. 中国系企業への調査・訪問
8. 中国系企業への調査・訪問
9. 中国系企業への調査・訪問
10. 中国系企業への調査・訪問

日中・神戸・長江中下流域文化交際促進委員会

代表 高橋次郎（神戸市長） 名誉顧問 下尾清元（神戸市長）

顧問 高橋次郎（神戸市長） 顧問 高橋次郎（神戸市長）

顧問 高橋次郎（神戸市長） 顧問 高橋次郎（神戸市長）

日中・長江中下流域-神戸-神戸地区地域合作中間委員会

委員長 高橋次郎（神戸市長） 委員長 高橋次郎（神戸市長）

委員長 高橋次郎（神戸市長） 委員長 高橋次郎（神戸市長）

委員長 高橋次郎（神戸市長） 委員長 高橋次郎（神戸市長）

中国系企業の進出状況（2002年4月1日現在）

| | 組織名 | 業種 | 進出時期 | 進出場所 |
|---|-----------------------|-----------------------------|-----------------|------------------------|
| 1 | 日本科龍株式会社 | 中国家電メーカーの研究開発機関 | 1998年(平成10年)7月 | ポートアイランド第2期(土地購入によるもの) |
| 2 | 社団法人神戸国際貿易促進協会 | 日中ビジネス関連コンサルタント | 2000年(平成12年)8月 | 神戸キメックセンタービル7階 |
| 3 | ベストワン株式会社 | ・建材輸入 ・インターネットによるコンサルタント | 2001年(平成13年)6月 | 同ビル9階 |
| 4 | 株式会社ソフトパークジャパン | ソフトウェアの請負・開発 | 2001年(平成13年)7月 | 同ビル5階 |
| 5 | 株式会社グローバルネットワーク | ・インターネット企業交流 ・ITコンサルティング | 2001年(平成13年)7月 | 同ビル9階 |
| 6 | 株式会社イーピーリンク | 臨床試験支援 | 2001年(平成13年)11月 | 同ビル4階 |
| 7 | 剣豪集団株式会社 | インターネットによる日中間の部品調達 | 2001年(平成13年)12月 | 同ビル9階 |
| 8 | 民生輪船有限公司(中国法人) | ・コンテナ輸送 ・食品貿易 | 2002年(平成14年)2月 | 同ビル7階 |
| 9 | インタセクト・コミュニケーションズ株式会社 | Web・携帯電話向けアプリケーション開発 | 2002年(平成14年)4月 | 同ビル7階 |

南京事務所の概要

1. 正式名称：神戸・南京経済貿易連絡事務所（略称：南京事務所）
2. 所在地：南京世界貿易センター1263号室
3. 住所・連絡先：江蘇省南京市漢中路2号
郵便番号210005
TEL：86 25 472 9420
FAX：86 25 472 9864
4. 駐在員(2名)：所長 田原 忠之
（神戸市課長級職員、武漢事務所長を兼務）
所員 馬 迅
（現地採用職員）
5. 開所日：2001年5月30日（水）
6. 主な業務：・中国側委員会（事務局江蘇省発展計画委員会、所在：南京市）との経常的な連絡調整
・各種ビジネス情報の收受・発信
・訪中者の現地での支援

光客が多く、非常に混み合っていました。中国では、現在もひとりっ子政策が行われており、休日になると子供を連れてどこかへ行ったりと、やや過保護ともいえるほど、子供が大切に育てられています。このテレビ塔においてもそういった様子を感じる事が出来ました。

このテレビ塔の展望台からは、広大な長江をうかがうことが出来ます。多くの船が行き来し、長江流域企業の交通路として利用されており、上海・長江交易プロジェクトにおいても活躍しています。

上海の街並みを見て気付いた事は、超高層ビルやマンションの合間に一般の住居が立ち並んでいることです。上海の人々は、このようなビルの間にも昔ながらの建物を残すということを必ず行います。これは、貧富の差をわざと見せ

上海の街並み

まず、日本を出発し最初に訪れた都市が、上海でした。街には、超高層ビルが所狭しと建ち並んでおり、上海がもの凄いスピードで動いている事を実感しました。最近ではテレビで取り上げられることが多く、旅行などで実際に行かれている方も数多くいらっしゃるかと思いますが、初めて見る私にとってはかなりの衝撃で、今までの中国のイメージを一新させられるものでした。上海では、まず東方明珠塔(テレビ塔)に行きました。テレビ塔は鉄筋コンクリート製で高さ438mもあり、これはアジアNo.1、世界でも第3位という巨大な建物でした。私が訪れた日は、夏休みということもあり家族連れのお



林立する高層ビル群



アジアNo.1のテレビ塔

つけることで、「あなたもがんばって成功すればこういう風になれるのですよ」ということを知らしめるためのようです。成功者になりたいという中国人の競争力を駆り立てているようです。

南京の街並み

中国を代表する巨大鉄橋といえば南京にある長江大橋です。長江大橋は、武漢、重慶に続いて、3番目に長江に架けられた橋です。上段が道路（4,589m）で、下段が線路（6,772m）になっており、1968年に完成しました。私が見に行ったのは午後3時頃でしたが、かなりの交通量があり、黒煙をふき上げて走る車ばかりでした。環境に悪いことが気になりましたが、高度成長期時代の日本も同じ光景であっただろうと思うとともに、中国も日本に追いつけ追い越せの勢いで日本の3倍ほどのスピードがあるのではないかと感じました。長江大橋のふもとには記念館があり、「中国建国の父」である毛沢東の銅像が建てられています。銅像を見ていると、その立派な姿に毛沢東の偉大さが伺えました。

次に訪れたのが、中国に現存する最大の城門「中華門」です。明時代初期（14世紀後半）に、南京を囲む周囲34kmにもおよぶ城壁を建て、

全部で13の城門があり、中華門は南京城の正門として造られました。幅118m、奥行き128mもある巨大な城門であり、最も保存状態が良く、かつ最大の城門として知られています。ここでは、数々の戦いが繰り返され、城壁の一番上に登り、周囲の状況を見張りながら戦ったといわれています。1937年には、日本軍が南京を侵攻し、中国国民党軍との戦いの末、南京城を占領しました。中華門の立て札には、日本人によって大虐殺が行われたという説明書きがされており、私たちは後ろめたい気持ちになりました。しかし、中国人のガイドの方は、「何を落ち込んでいるのですか？」と淡々と説明を続けており、複雑な心境になりました。



偉大な毛沢東



黒煙に霞む長江大橋



歴史を物語る中華門

急成長する経済特区「深圳」

深圳の街並みは、中国初の経済特区に指定されているように、上海よりも発展しているという印象を受けました。高層マンションが建ち並んでいるうえに、建設中の高層ビルがあちこちに見受けられ、成長と発展を繰り返している状況を目で見て感じ取ることが出来ました。しかし、この高層ビルが建ち並ぶ中にも、至る所に芝生や木々が植えられており、経済が発展していくうえでも、環境に配慮していることが伺われました。これは深圳だけではなく、中国全体にこのような風土があると聞きました。



めざましい発展を遂げる経済特区「深圳」



多くの緑地が設けられ環境にも配慮した都市計画が

経済特区（経済特区）とは

中国では「改革・開放」の政策に沿って、1979年7月より、深圳、珠海、汕頭（以上、広東省）厦門（福建省）の4都市を経済特区に指定した。（当初は「輸出特別区」と呼ばれた）これらの経済特別区では、外国からの資本や技術を導入し、中国側が労働力、土地、建物を提供して設立される合弁企業を積極的に誘致するために、輸出入関税の免除、所得税の3年間据え置きなどの優遇措置が講じられてきた。また100%外資の企業も認可されている。外貨獲得のための拠点であるが、中国側は、経済特別区で生産された製品を外国に輸出するという”水際作戦”をとっているため、中国市場へ参入して販路を拡大しようとする外国企業とのトラブルも多発するなど、問題も多い。中国最大の経済特区で香港に隣接する深圳は、人口も急増し、高層ビルが林立して中国の対外開放基地となり、広東省から華南全域に経済的影響を与えている。

深圳華日自動車有限公司

経済特区「深圳」で最初に訪問したのが、深圳華日自動車有限公司です。同社は、日中で設立された初めての合弁会社で、トヨタとの資本提携により1992年に事務所兼工場である華日自動車センタービルを建設しました。敷地面積6,000m²、10階建てで、建築面積23,800m²、投資額は5,000万人民元（日本円で約6億7千万円）。トヨタ自動車専門のメンテナンスおよび同自動車部品の販売を主業務とし、年間自動車修理台数は2万8千台に達します。

同社での業務すなわち「トヨタの教育に基づいた仕事の進め方」は、中国人にとって大変厳しいもので、初めは戸惑いを感じて仕事をしていたようですが、現在ではISO9002を取得し品質保証体系も確立するまで成長しています。ま



「トヨタの教育に基づいた仕事の進め方」の説明を受ける

た、技術研修などの従業員の育成にも積極的に取り組んでいて、2年に一度は日本へ研修生を派遣し技術習得が行われているとのこと。

トヨタは2002年10月に新たに天津で合弁会社を設立し、中国国内向けの自動車製造・販売に乗り出します。そのため、ここ深圳華日自動車有限公司は中国南部の販売拠点となり、今後ますますの発展が見込まれるとのこと。

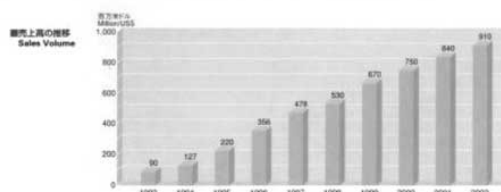
独立心の強い中国人

中国の人にとって、終身雇用という考えは無いようで、いつでもチャンスをつねらって独立をめざしているとのこと。現実には、20年間同社で勤務し、技術を習得し独立した人が、深圳華日自動車有限公司を上回る売上げを計上するコンペチターとなっている例もあるそうです。日本とは全く違う異文化を垣間見ることが出来ました。

沙井三洋微馬達廠

沙井三洋微馬達廠は、日本の三洋電機(株)が委託加工工場として中国に設立したものです。また、経営は三洋精密(株)が行っており、主な製品はカメラ、CD-ROMや携帯電話等に内蔵されている直流マイクロモーターです。この三洋精密(株)は長野県に本社があり、その

他、香港、シンガポール、アメリカのシカゴに販売拠点をもち、この深圳の工場を含め中国には4カ所の生産拠点が有ります。グラフは三洋精密(株)における生産数量及び売上高の推移を示しています。見て頂いたら分かるように、すばらしい右肩上がりとなっており、非常に羨ましかぎりです。



売上高の推移表

人海戦術による生産体制

沙井三洋微馬達廠は、先程の深圳華日自動車有限公司のような合弁会社ではなく、あくまでも日本メーカーの委託生産を行う「中国企業」であり、ただ中国という土地と人を借りて仕事をこなしているということです。組織図に注目してほしいのですが、日本人スタッフが11名、これは日本から派遣された経営者と技術者で、それ以外に、香港工場から技術者である香港人派遣者と村からの派遣者が各1名以外はすべて現地の工員でその数は5,000名におよんでいます。しかも、今では優に6,000人は越えているとのこと。また、男女比は1:14と圧倒的に女性が多く、平均年齢も20歳と若い女性が大半となっています。工員との雇用契約は、1年毎の更新となっていますが、長くても3年ぐらいいしか在籍せず、月に100~130名もの人員が入替わっています。

生産は昔ながらの人海戦術であり、工場内を見学しましたが、ベルトコンベアの前に1グループ60名程度の女性が並び、流れてくる製品をISO標準に基づいた品質管理体系により組立て

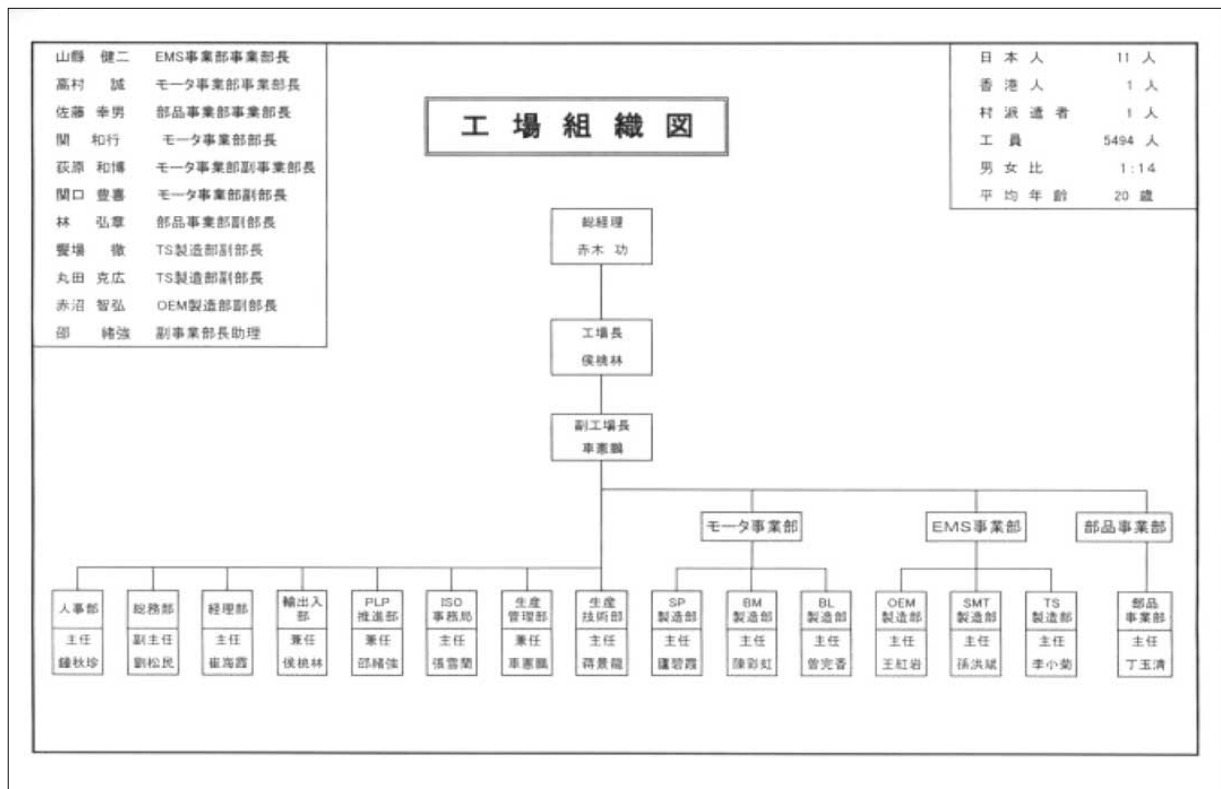
られ検査が行われています。確かにしっかりしたマニュアルによる単純作業であるために、月に100数十人も的人员が入れ替わったとしても直ぐに対処できるわけです。休みは日曜日のみで、一日の労働時間が平均10時間程度であり、それでも工具からのクレームはないとのこと。反対に日曜日も仕事をさせると言われるぐらいで、その背景として、ここに働きに来る女性のほとんどが金を儲けるために農村部から稼ぎにきていて、2年間まじめに働けば田舎に立派な家が建つと言われていました。また、宿舎は10人部屋で、クーラーもないため、涼しい工場で働いている方が良いというのが本音のようです。また、月給は残業代込みで約1,000元（日本円で約15,000円）であり、この賃金水準は同社が中国での生産をはじめてからの8年間ほとんどかわっていないとのことでした。そして、あと10年間はこの賃金で同じだけの生産力を保つことが出来ると言われていました。中国の恐るべき労働事情を感じる事ができました。

労働組合事情

沙井三洋微馬達廠にも労働組合があります。日本と違っているのは、工場長、いわゆる管理職の方々も組合員であるということです。方針としては、“会社の手助け”、“生活環境の改善”を合い言葉に組合活動が運営され、日本と同じようにいろいろな行事が行われています。また、日本のようにサービス残業はなく働いた分だけ給料は支払われるということで、休みも無しに働きたがる気が少しわかるような気がしました。

上海雑伎団

視察のあい間に上海雑伎団の公演を見ることができました。入場料は日本円で2,500円程度と安く、ここでは中国人の身体能力の高さに驚



組織図



「超美技」の連続



中国エンターテイメントの花形

くばかりでした。

上海雑伎団は、1951年にできた中国で最も有名なサーカス団で、日本をはじめアメリカ、フランス、イタリアなど世界各国で海外公演も行ってきます。エンターテイメントの花形であり、「雑伎を見なければ上海に来た意味がない」といえるほどです。人間業とは思えないようなアクロバットの数々を楽しむことができました。



最後に

経済成長を続ける中国。しかし、そこに垣間見た貧富の激しさ。高層ビルの中に今も昔ながらに残る居住空間。成功した者だけが味わえる別世界が中国には存在する、そんな印象さえ受けました。経済成長が目立つ反面、失業率も高くなっているようです。これは民営事業が多くなり、企業の合理化が図られ、それ故、余剰人員は容赦なく切り捨てられているためです。ただ、今の中国の若者はこの現状を目の当たりにしているため勉強に励む人が多いのが事実です。日本のように豊かでありながらも平和すぎるというのもよし悪しなのかもしれません。大学に進学し、可能な限り勉学に励み企業から必要とされる人材になるよう努力する。それが中国人にとって豊かになるための一番の近道だと考えているようです。この考え方が正しいかどうか

かは分かりませんが、日本の景気回復のひとつの手段はこの『能力主義』の定着にあるのではないかという気がします。

また、深圳のガイドの方が、「我々中国人は自分たちの力で成功しているんだ。日本も、もっとがんばりなさい。」と言われた言葉に象徴されるように、プライドが高く、ほとんどの人々が「目指すは世界No.1という気持ち」を持って仕事にのぞんでいます。しかし私は、「今回視察した日系企業は所詮日本メーカーのブランド力があってこそ、信用され成功しているんじゃないの」と反論をしたいところではありますが、仕事に対する姿勢については大いに考えさせられる点となったのも事実です。

今回の視察で、中国の「長い長い歴史」と「目指すは世界No.1という信念」を持ち合わせた大国・中国を直接自分の目で見る事が出来、私自身にとって貴重な体験になったと痛感します。

最後に、視察中、ご指導・ご鞭撻をいただいた神戸労働者福祉協議会の方々、そして私にこのような機会を与えてくれたパンテックユニオンの皆様に心より感謝申し上げます。

(文責：伊藤 正樹)